

久慈市議会市民共同「久慈平岳牧場」視察研修報告書

<研修報告> 久慈市議会 市民共同

高屋敷英則・宮澤憲司・畑中勇吉・小倉利之

1. 研修テーマ 農事法人「久慈平岳牧場」の農水省事業を導入した大規模  
牧場経営の歩み

ア、研修場所 九戸郡洋野町大野 20-40-2

「久慈平岳牧場」

講師・牧場長 田村英寛

イ、日 時 平成28年2月22日 14時30分～1  
5時45分

【研修所感】

- ① 久慈農林高校を卒業時には負債を抱え飼育乳牛も数頭の小農家から  
どうして乳牛、肉牛合わせて飼養頭数1700頭もの大農家に発展で  
きただろうというのが最大の関心事であったが、30歳代にアメリカ  
の酪農家を視察研修してその壮大さにド肝を抜かれたと当時を回想  
していた田村社長。乳牛が2000~3000頭飼育牛舎内を大型バ  
スで視察して一時は焦燥感で仕事が手につかなかったが、当時、一緒  
に視察した酪農仲間が積極的に規模拡大に取り組むのを目の当たり  
にして一年奮起して大きな目標に向かって取り組むようになったと  
報告があった。久慈平岳牧場の誕生の根源は、田村英寛氏のアメリカ  
大牧場視察であったと感じた。
- ② TPPの問題などで日本の一次産業は岐路に直面しているが、食糧、  
飼料など自国の食にかかわる自給率の100%達成は喫緊の課題であ  
る。そのためには、国内的にも国際的にも経営が成り立つ内容でなけ  
れば長続きはしない。
- ③ 田村社長は円高をうまく利用して、かつては干し草等は輸入していた  
が、平成25年設立の久慈平岳牧場の経営にあたっては、広い畑にデ  
ントコン、牧草を植栽して糞、尿を肥料として活用させる資源循環型  
酪農を目指しており、耕作放棄地や環境対策にも役立つと期待される。
- ④ 現在の搾乳牛頭数が600頭余りで円形回転搾乳台には一度に50  
頭の乳牛が整列できるといい、搾乳された乳は瞬時に2度ほどに冷却  
保管され、保管タンク等を含めて規模拡大や乳輸送システムの近代化  
に十分対応できる内容のようである。

- ⑤ 現在の久慈平岳牧場関連の雇用者数は20名以上であり将来的には搾乳牛1000頭を目指して、長男が後継者として経営に参画していることから将来とも有望である。
  
- ⑥ 搾乳牛の受精には、黒毛純正、F1、乳牛などを交配して誕生牛はすべて自前の牧場で飼育し、そのほか短角牛も生産していることから6次産業へのさらなる発展が期待される。